

日産財団ニュースレター (第33号)

2017年11月発行



NISSAN
GLOBAL
FOUNDATION

ひとを育て、未来に夢を...

はじめに

日産財団では、2016年度理科教育助成(助成期間2017.1.1~2018.12.31)の対象校・団体の1年目の活動状況を把握するための助成校・団体への訪問を実施しています。それぞれの学校・団体の実践内容を、日産財団ニュースレターで紹介していきます。

◆ 2016年度助成校・団体の活動紹介(2017年7月~10月に訪問した6件)

福島県 会津若松市立謹教小学校



3年生の「こん虫を調べよう」(写真左)と5年生の「魚のたんじょう」(写真中央)の公開研究授業。授業の導入段階で、「あれ?」「どうして?」と思わせる事象提示や、授業の最後に「理科日記」を書かせるなど、随所に教師の工夫が取り入れられていた。写真右は、授業後の分科会での活発な意見交換の様子。

福岡県 福岡市立有住小学校



全学一貫型学習フィールドとしてのビオトープを活用した1年生の生活科「いきものとなかよし」。ビオトープで捕まえた虫に、もと住んでいたところと同じように飼育ケースに住処を作る授業。捕まえた場所の木の枝や草を入れたり、土を掘って隠れ場所を作ったり、友達と関わり合いながら虫のお部屋を完成させた。

神奈川県 三浦市立剣崎小学校



5年生の「人のたんじょう」の公開授業。アクティブラーニングを志向した授業で、多くの時間を子どもたちの話し合い活動にあてるという主体的・協働的な学びを具現化する授業であった。電子黒板で既習事項をふり返り、次の学習へと学びを繋げていった。授業後は、三浦市小学校理科研究会の研究会が行われた。

福岡県 福岡市立香椎東小学校



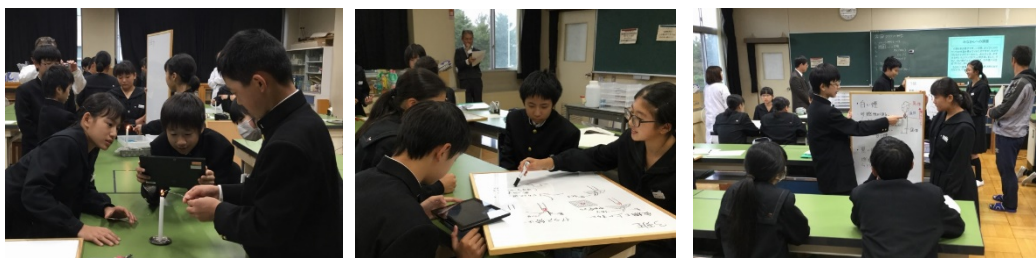
4年生の「月の動き」の授業。月の位置の変化を時間と関連づけて考え、対話的・協働的な交流活動を通して学びを深めることを狙っている。午後10時と午前0時の月の位置と方位が描かれた図から、午後11時と午前1時の月の位置を予想させ、グループごとに発表、その後シラナビゲーターで月の位置を確認した。

神奈川県 横浜市小学校理科研究会



8つの部会+理科支援員による理科教材展示の様子。写真左は、「流水の働き」をオアシスを使用して表現している。中央は、「物の温まり方」を着色した水と、熱で変色する加工を施した金属板で熱の動きを見せている。右は、「月の満ち欠け」を発泡スチロールの球体と懐中電灯を使って見せる実験の様子。

栃木県 県立矢板東高等学校附属中学校



1年生「物質のすがたとその変化」の授業。火をつけたろうそくを吹き消した直後の白い煙に火を近づけると、再び火がつく現象について、金網をあて炎を輪切りにしたり、ガラス管をあてた煙の色に着目しながら班の考察をホワイトボードにまとめた。その後班の2名が他の班に移動し、班の意見を交流させた。